

ニュースアップ

眼底カメラ開発でクラウドファンディング目標達成

広島大学大学院医系科学研究科(視覚病態学)、広島大学病院眼科では2~4月、「広島大学クラウドファンディング」により新しい眼底カメラの開発とAIを活用した遠隔眼底診療の仕組みづくりへ向けたプロジェクトを企画、149人の方々から366万8千円のご寄付をいただきました。

日本における失明原因の上位を占める緑内障や糖尿病網膜症といった眼底疾患は、自分で見えにくいなど感じたときには手遅れの状態となっていることが多く、自覚症状のない早期に眼底検査を行い診断・治療を開始する必要があります。そのため、気軽に簡単に検査と診断を受けられる方法と仕組みが求められています。今回開発するのは、スマートフォン接続型の眼底カメラで撮影した画像を、インターネット経由でAIや専門の眼科医が遠隔診断することで、より多くの患者さんに眼科医療を届け、緑内障や糖尿病網膜症の早期治療につなげていく仕組みです。この取り組みは、できる限り安価にして、より多くの方に活用していただけることを目標にしています。いただいたご寄付により、スマートフォン接続型カメラとそれを用いて撮影した画像を、AIとも連携させた遠隔眼底読影の開発に取り組みたいと考えています。

木内良明教授は「大変多くの皆様からのご寄付や応援のお言葉に気が引き締まる思いです。『眼底疾患を早期発見することで失明を防ぎ、皆が明るい未来に暮らす世界』を実現することが最大のお返事だと考えています。ここからが新たなスタートです。チーム一丸となり、少しでも早く皆様にスマホ接続型の眼底カメラとAIを活用した遠隔診療体制をお届けできるように開発を進めていきます。また、皆様のご支援が後押しとなり、AMED(国立研究開発法人日本医療研究開発機構)の事業からも採択を頂くことができました。より一層気を引き締めて開発を加速させたいと思っています」と感謝しています。

